

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：33805

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380905

研究課題名(和文) 母親の心の理論における処理過程の解明：母親は子どもの気持ちを理解しているのか

研究課題名(英文) The information processing of mother's theory of mind: Do mothers understand their child's mind?

研究代表者

菊野 春雄(Kikuno, Haruo)

静岡産業大学・経営学部・教授

研究者番号：00149551

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：母親は自分の子どもの気持ちを正しく推論できるのだろうか。本研究では、母親の心の理論のメカニズムの解明、育児不安が心の理論の処理過程にどのように影響するのかを検討した。その結果、母親が子ども気持ちを推測する際に、子どもの気質のタイプにより注視し処理する部位の情報が異なること、また父親とは異なる部位の情報を使うことが明らかになった。これらの情報処理過程は、育児不安・養育態度・認知スペースの大きさによって異なることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Can mothers understand their child exactly? This study examined how the mechanism of mother's theory of mind works and whether her mother's theory of mind is influenced by child care uneasiness. The results of this study showed that the part of child's face which mother understand to use varies according to child's temperament. It also showed that mother's processing is different from father's one and is influenced by child care uneasiness, child care style and cognitive space.

研究分野：心理学

キーワード：発達 母親 心の理論 養育態度 育児不安 推測 父親 気質

1. 研究開始当初の背景

母親は自分の子どもの心を正しく推論できるのであろうか。一般的には、乳幼児の行動や表情は大変単純であり、母親は子どもの顔や身体における情報から、子どもの気持ちや感情を容易に推測できるように思われる。しかし、母親が子どもの気持ちを的確かつ正確に推測できるわけではないことがいくつかの研究で報告されている。たとえば、Keating & Heltman(1994)は、大人が幼児の気持ちを顔の表情等から推測することが、容易でないことを報告している。また、Lewis, Stanger and Sullivan (1989)は、3歳の幼児が嘘をついている場面を大人に見せたところ、どの子どもが嘘をついているのかを正しく認識できなかった。これらの結果は、単純であると思われる幼児の気持ちを我々大人が顔の表情等から推測することが、容易でないことを示唆している。

また、母親が自分の子どもの気持ちをどのように推測しているかを調べたところ、子育て不安の高い母親と子育て不安の低い母親との間に、子どもの心の認識について違いが見られた。他方、目や口など動く身体部位については、母親との間に差は見られなかったが、鼻や耳など動きが見られない身体部位では、子育て不安の高い母親は十分に注意が向けられず認識しにくいことが認められた。この結果は、子育て不安が母親による子どもの気持ちの認識に何らかの影響を与えていることを示唆している。

2. 研究の目的

本研究では、母親の心の理論のメカニズムの解明、並びに育児不安が心の理論の処理過程にどのように影響するのかを明らかにすることを目的とした。特に、心の理論における母子関係処理モデルを仮定して、どの処理に問題が生じるかを分析することで、育児不安がなぜ母親による子どもの心の推論が困難になるのか、推論が容易になるのかを明らかにしたい。特に本研究では、(1)母親の心の理論のメカニズムの解明、(2)育児不安により母親の「心の理論の処理」がどのように影響を受けるのか、(3)「認知スペース」と「メタ認知的養育」が心の理論の処理はどのように影響するのかを明らかにしたい。

研究1では、子どもの気持ちを推測するときに、子どもの気質によって母親の子どもの気持ちの推測の仕方がどのように異なるのかを明らかにしようとした。また、育児不安が気持ちの推測過程にどのように影響するのかを調べた。研究2では、認知スペースである母親と父親のワーキングメモリーの容量によって、母親の子どもの気持ちを推測するのに、用いる情報が異なるのかどうかを調べた。研究3では、母親の子どもの気持ちを推測するのに、メタ認知的養育態度がどのよ

うに影響するのかを調べた。

3. 研究の方法

(1)研究1

調査協力者：幼稚園や保育園に在籍する子どもの母親 138名であった。

研究計画：4×2×4の3要因の混合型の要因計画で本研究を実施した。第1の要因は子どもの気質で、Strange、Taste、Cycle、Standardの4タイプの子どもであった第2の要因は母親の子育て不安で、高不安か低不安であった。第3の要因は子どもの気持ちを推測する際の顔の部位であり、目、口、耳、鼻であった。

手続き：母親に(1)子育て不安、(2)子どもの気質、(3)MRT(Mind Reading Test)のテストを実施した。子育て不安テストは、10項目の質問で構成されていた。子どもの気質テストは、菅原ら(1994)を参考に21項目で構成されていた。また、MRTは、子どもの気持ちを推測する際に、子どもの目、口、耳、鼻の部位の変化を手掛かりにして推測するのかを評定する項目であった。それぞれの項目は、4点の評定尺度で回答するようになっていた。

(2)研究2

調査協力者：調査協力者は、子育て中の父親9名と母親18名の合計27名であった。

研究計画：本研究の研究計画は、2×8の2要因の計画で実験を実施した。第1の要因は親の性別であり、父親と母親を含んでいた。第2の要因は、子どもの気持ちを推測するための手掛かりとしての身体の部位で、右耳、右眉、右目、左耳、左眉、左目、口、鼻を含んでいた。親の性別は協力者間要因であったが、身体部位は協力者内要因であった。

研究材料：実験のために、乳幼児の写真を12枚用意した。この写真の内6枚は、日本人の子どもの写真であった。内訳は幼児の顔2枚、乳児の顔2枚、乳児の全身像1枚、幼児の全身像1枚であった。残りの6枚は西洋人の子どもの写真であった。幼児の顔2枚、乳児の顔2枚、乳児の全身像1枚、幼児の全身像1枚であった。このほか、中性刺激として、犬の顔と全身像を1枚ずつ、計2枚の写真を用意した。このほか練習用として、乳児と幼児の写真を1枚ずつ用意した。

手続き：本実験は、属性課題、表情推測課題、認知スペース課題の3課題で構成されていた。属性課題では、調査協力者の年齢、きょうだい関係、子どもの数などの属性を調査した。表情推測課題では、まず乳幼児の顔もしくは全身の写真を提示し、その後でその子どもの気持ちを推測させた。気持ちの判断は、子どもが悲しい気持ちであるかどうかであり、4段階で推測をさせた。認知スペース課題では、標準的なワーキングメモリーの側の課題を実施した。なお、表情推測課題では、非接触型のアイトラック(Tobii X2-30)を用いて注視時間を測定した。

(3)研究3

長さ協力者：父親 17 名と母親 17 名の合計 34 名が研究協力者であった。

研究計画：研究の研究計画は、 $2 \times 2 \times 8$ の 2 要因の計画で実験を実施した。第 1 の要因は親の性別であり、父親と母親を含んでいた。第 2 の要因はメタ認知的養育態度であり、高メタ認知的養育態度と低メタ認知的養育態度を含んでいた。第 3 の要因は、子どもの気持ちを推測するための手掛かりとしての身体の部位で、右耳、右眉、右目、左耳、左眉、左目、口、鼻を含んでいた。親の性別とメタ認知的態度は協力者間要因であったが、身体部位は協力者内要因であった。

手続き：実験を実施するにあたり、まず研究参加者にメタ認知質問を提示し、回答するように求めた。回答終了後、子どもの気持ちを推測する課題の実験を行った。実験では、Tobii 製のアイトラックを用いて、14 枚の乳幼児の顔写真を提示し、子どもが悲しいかと思っ

4. 研究成果

(1)研究 1

図 1 は、子どもの気質、母親の子育て不安を要因として、母親が子どもの気持ちを推測する際に、子どもの目、口、耳、鼻のそれぞれを手掛かりにする MRT の平均値を

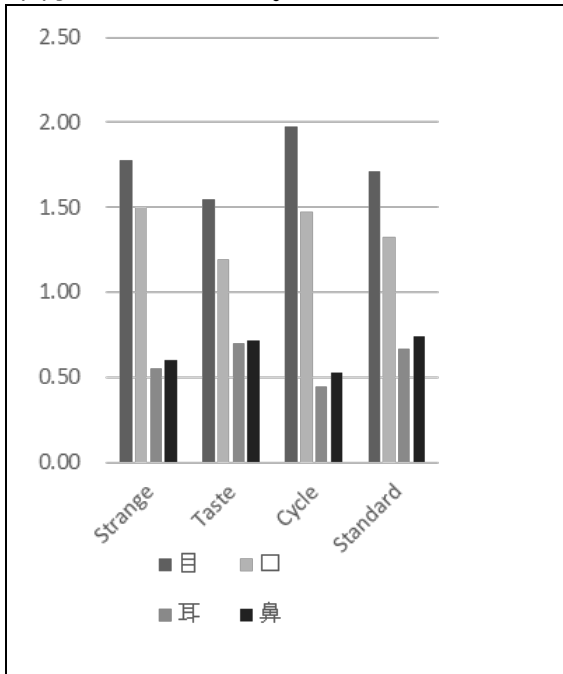


図 1 子どもの気質と手掛かりとする顔の部位

分散分析を行った結果、母親の子育て不安の主効果が有意であった ($F(1, 130)=5.53, p<.05$)。この結果は、子育て不安の高い親よりも低い母親の方が、子どもの顔の部位を手掛かりとして、子どもの気持ちを推測していることを示している。また、顔の部位の主効果も有意であった ($F(3,$

$390)=139.35, p<.01$)。これは、母親が子どもの気持ちを推測する際に、耳や花よりも、目や口を手掛かりにすることが有意に多いことを示している。

子どもの気質 \times 顔の部位の交互作用も有意であった ($F(9, 390)=2.50, p<.05$)。Strange タイプと Cycle タイプの子どもの気持ちを推測する際に、母親が目と口を手掛かりにすることについて両者の間に有意な差が見られなかった。しかし、Taste タイプと Standard タイプの子どもでは、口よりも目を手掛かりとして子どもの気持ちを推測することを示している。しかし、その他の主効果や交互作用は有意でなかった ($F_s<1.00$)。以上の結果から、子育て不安の高い親よりも低い母親の方が、子どもの顔の部位を手掛かりとして、子どもの気持ちを推測していることが明らかになった。また、母親が子どもの気持ちを推測する際に、耳や花よりも、目や口を手掛かりにすることが明らかになった。さらに、どの部位を手掛かりにして子どもの気持ちを推測するのかについて、子どもの気質によって異なることが明らかになった。

(2)研究 2

刺激材料として提示した子どもの写真について、右耳、右眉、右目、左耳、左眉、左目、口、鼻の領域について、注視時間を測定した。図 2 は、各部位の注視時間を、父親と母親について図示したものである。

そこで、注視時間を 2 (親の性別：父親、母親) \times 8 (身体部位：右耳、右眉、右目、左耳、左眉、左目、口、鼻) の 2 要因の分散分析を行った。その結果、身体部位の主効果が有意であった。個々の差を検定したところ、鼻、身体、右目が、右耳、左耳、左眉との間に有意な差が見られた。

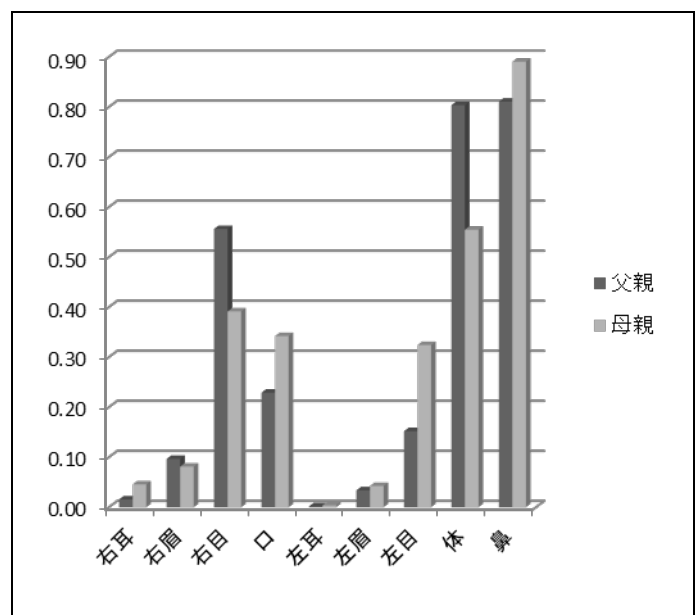


図 2 母親と父親が子どもの気持ちを推測するのに注視した時間 (秒)

しかし、親の性別の主効果は有意でなかった。また、親の性別と身体部位の交互作用が有意であった。そこで、単純効果の検定を行ったところ、以下の差において有意差が認められた。右目では母親よりも父親で注視時間が長いこと、左目では父親よりも母親で注視時間が長いこと、口については、父親よりも母親で長いこと、身体では、母親よりも父親で注視時間が長いことが認められた。

以上の結果は、子どもの気持ちを推測する時に、父親と母親で手掛かりにする部位の違いがみられることを示唆している。すなわち、父親は右目や身体全体を手掛かりにして、子どもの気持ちを推測することが認められた。他方、母親は子どもの左目や口を手掛かりにして子どもの気持ちを推測することが認められた。

このように、父親と母親で子どもの気持ちを推測する際に、手掛かりとする部位が異なる理由としては、情報処理のタイプの違いなどの要因を含めて検討をする必要があることを示唆している。

(3)研究3

各部位の注視時間について分析した。まず、メタ認知的養育態度と注視する部位との間について分析した。その結果、メタ認知養育態度の高い親と低い親との間に差が認められた。全体的には、メタ認知養育態度が高い親に比べ低い親のほうが、顔の各部位により長く注視することが認められた。

また、母親と父親の差について、注視時間について分析した。その結果、左目で母親よりも父親で注視時間が長かった。これらの結果は、子どもの気持ちを推測する際に、養育者がどのようなメタ認知的養育態度を持っているかによって注視する倍が違うことが認められた。また、養育者の男女差、すなわち父親か母親化によって、子どもの顔のどの部分の情報を処理するかに違いがみられることを示唆している。

これらの研究結果から、母親が子ども気持ちを推測する際に、子どもの気質などのタイプにより注視し処理する部位の情報が異なること、また父親とは異なる部位の情報を使うことが明らかになった。さらに子どもの気持ちを推測する情報処理過程は、育児不安・養育態度・認知スペースの大きさによって異なることが明らかになった。これらの結果は、母親の育児不安の低減が、養育している子どもの気持ちの理解や推測を促進していることを示唆している。

<引用文献>

Keating,C.F. & Heltzman,K.K. (1994) Dominance and deception in children and adults: Are leaders the best misleaders? *Personality and Social Psychology Bulletin*, 20, 312-321.

Lewis,M., Stranger,C. & Sullivan,M.W. (1989) Deception in 3-year-olds. *Developmental Psychology*, 25, 439-443.

菅原ますみ・島 悟・戸田まり・佐藤達哉・北村俊則(1994)乳幼児期にみられる行動特徴：日本語版 RIT および TIS の検討、*教育心理学研究*, 42、315 - 323。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Kikuno,H. Kikuno,Y. & Li,Q. (2014) Do mothers with good theory of mind understand children's mind easily, *環境と経営*, 20, 41-45.

菊野春雄・菊野雄一郎 (2015) 子どもの気質と母親の心の理論が子育て不安に影響するのか 平成 27 年 6 月 *環境と経営*,21(2), 1-7

Kikuno,H. & Kikuno,Y (2016) How do mothers understand their own children's mind from information of their face? *環境と経営*,21(2)

[学会発表](計 6 件)

菊野春雄 (2014) 母親は子どもの気持ちを簡単に推測できるのか 2014 母親の心の理論と子どものタイプ静岡産業大学 全学研究発表大会

菊野春雄 (2014) 親は子どもの気持ちをどのように推測するのか 日本乳幼児教育学会 第 24 回大会発表論文集

Kikuno,H. Kikuno,Y. & Li,Q. (2014) Mother's theory of mind and children's personality type 2014 *The British Psychology Society Developmental Section Annual Conference*

Kikuno,H.& Kikuno,Y.. (2014) Do mothers with good theory of mind understand children's mind easily? *The British Psychology Society Developmental Section Annual Conference*

菊野春雄(2015) 乳幼児の気持ちを推測するプロセスについての検討 日本発達心理学会 第 27 回大会発表論文集

Kikuno,H.& Kikuno,Y.. (2015) How do father and mothers understand their child's mind? *The British Psychology Society Developmental Section & Social Section Annual Conference*

菊野春雄(2015) 気持ちの推測に及ぼす子育て不安と子どもの気質の要因 2015 日本乳幼児教育学会 第 25 回大会発表論文集

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菊野 春雄(KIKUNO Haruo)
静岡産業大学・経営学部・教授
研究者番号：00149551

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし